

平成30年度 専門委員会活動報告

(1) 第1部会「新荷役機械システム調査研究委員会」

①調査研究テーマ

コンテナヤード内の効率性向上に関する調査研究（継続）

②調査研究活動報告

コンテナヤード内の効率性向上を図りつつ、沿岸荷役を安全に実施可能なターミナルのレイアウトについて検討を行った。

具体的には、外来シャシーをヤード内に入れずにコンテナ受け渡しを行う一方で、従来の自動化ターミナルで主流となっているコンテナの縦配置を踏襲しつつ、トランスファークレーンにはコンテナの移動を行わせないことにより効率性の向上を図った全く新しいターミナルレイアウトを提案した。

本ターミナルレイアウトは、従来の自動化ターミナルとは全く異なったシステムであるため、国内特許を申請するとともに、海外特許申請も予定している。

(2) 第3部会「付帯施設標準化調査研究委員会」

①調査研究テーマ

その1：コンテナクレーン検査点検表の見直し（継続）

その2：地方港向けコンテナクレーン実績調査整理（新規）

②調査研究活動報告

その1：平成8年10月に改訂したコンテナクレーン検査点検表をベースに現状のクレーン仕様に合致した内容とすべく、記述内容の見直しを行い、機械関係の見直し並びに変更箇所およびその変更理由の取りまとめを行った。

その2：メーカーからの基礎荷重などのデータ開示は各社の仕様が推測できる可能性があることから、仕様書記載の範囲以外は不可。また、港荷協より客先に一斉アンケートを取りデータを集める案も考えられるが、回収率、実施期間、客先への成果物の開示を考えると実施は難しいと判断し、本テーマは取り止めとした。

(3) 第4部会「荷役機械用電機設備調査研究委員会」

①調査研究テーマ

コンテナクレーン検査点検表（電気関係）の見直し（継続）

②調査研究活動報告

平成8年10月作成のコンテナクレーン検査点検表 II 電気関係についての見直しを開始したが、現状のものは、サイリスタレオナード制御、直流モータで構成されていたため、大幅な見直しが必要であることがわかった。また、平成26年7月に国土交通省港湾局より発行されている港湾荷役機械の点検診断ガイドラインにより、最新のインバータ制御で見直しされていた。そこで、この最新のインバータ制御のリストを見直すことで協議を行った。

協議の結果、本リストの使用目的はメンテナンスの点検チェックリストとして使用することで、容易にデータを抽出できるようにする必要があり、データを装置・機器ごとに検索できるようにデータベース化することがベストとの結論となった。そこで、内容について修正追記を行い、また、フォーマットを一部変更し、EXCELのフィルタ機能により容易に抽出できるデータベースを作成した。